

連携提案：国語の語彙教育・文法教育に関する魅力的な授業の創造

キーワード：日本語、語彙、文法、系統性、教材化、帯学習、一時間完結型授業

人文・社会教育学系 講師 鯨井 綾希 Kujirai Ayaki

連携提案内容と効果

2020年度以降に順次実施されている新しい学習指導要領では、「生きる力」の育成に向けた重要な項目として「言語活動の充実」が挙げられています。日本でその基盤を成すのは、国語科で学ぶ日本語という言葉であると言えます。**日本語を自由自在に使えるように、また理解できるようになるための、語学的な知識に基づく分析力・思考力・表現力の醸成は、教育的取り組みとして今後ますます重要になっていくことでしょう。**そんな時代の流れに答えられるのが、私を含む日本語研究者（言語学者）です。私たちは**日本語の語彙と文法の特徴を分かりやすく伝える手法**を持っています。それを生かして**語学的な国語の授業を創造し、生徒の日本語能力の向上を目指しています。**

言語地図を使って日本の地理を分割しよう



方言語彙の地理的分布を見出す活動

語句の位置を変更して意味を明確にしよう
 上野さんは高橋さんと松本さんに
 町の歴史を尋ねた
 問1：「町の歴史を**尋ねた**」のは誰かな？
 （二通り考えられます）
 問2：「**尋ねた人**」を上野さんと高橋さんの二人に固定するにはどうする？

文法的な操作に関する訓練

市販のカードゲームを活用した、国語科の語彙・文法に関する授業方法の検討



語同士の依存関係を考えてみよう
 みなみ【南】太陽の出る方に向かって**右**の方角。
 みぎ【右】南を向いたとき、西にあたる側。
語同士でループしない「語釈」の考案
 非対称なものを見つけて、それを利用するなど
 例：『新明解国語辞典 第7版』「右」→「明」という漢字の「月」の側

語の意味理解と相互関係を考えるための辞書の活用

アピールポイント

宮城教育大学や山形大学の研究者とともに**「発見」に基づく文法教育のあり方**を模索しています。大学院生や修了生にも協力を仰ぎ、**チームで研究**を深めています。最近では国語と他教科との**教科横断的授業**も構想しています。

連携したい分野

- ・学校教育現場における国語科
 （小学校から高等学校まで、それぞれの学校で活躍されている先生方で、語学的側面の重点化をお考えの方）
- ・教材を作成している出版社や授業方法を検討している塾

本学での研究テーマ：国語科における語学的側面に関する教育方法の開発と小中高にまたがる系統学習の構築

	プロフィール	専門分野	日本語学、計量言語学
	宮城県仙台市生まれ。東北大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。東北大学文学部研究助手を経て上越教育大学講師。写真は附属中学校の観覧会おもてなしプロジェクトにて撮影。	主な研究内容	1) 日本語の語彙の分布に基づいた品詞体系の再構築 2) 日本語の文章に見られる結束性の原理の解明 3) 日本語の語彙・文章の相互影響関係の解明
関連URL		本学研究シーズ集 https://www.juen.ac.jp/050about/055kenkyu/050seeds/index.html	

関連する業績等

「文章展開メカニズムの解明に向けた語彙拡張プロセスに関する研究」（日本学術振興会 科学研究費助成事業(若手研究)：研究代表者、2019-2022)、「文章を構成する語彙の相互関係に関する定量的研究」（日本学術振興会 科学研究費助成事業(若手研究(B))：研究代表者、2017-2019)、「日本語母語話者／学習者の語彙運用上の差異の解明：コーパスと計量分析を活用して」（語彙研究会「公益信託田島毓堂語彙研究基金」研究助成：研究代表者、2015-2017)「中学校における『発見』型文法教育に関する準備研究」（平成31年度宮城教育大学重点支援研究経費：研究分担者、2019-2020)

お問い合わせは、鯨井研究室 kujirai@juen.ac.jp まで。